三才雜錄

1000
3
帙入

国立国会図書館　　三才雜録　特1000-3

ガラス使用

特1000
3

三才雜録序

人生而不學與不生同学而不知道與不學同知而不能行與不知同故為人者必不可不学為学者必不可不行知道至難自古英才敦行之士不為不多然知道者鮮矣學問思辨之功所以不可闕也

朽木文庫
飛田文庫

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

三才雜録巻一上　高尚亡輯

和書大概

日本書紀（ホンギ）書ノ字不讀（ヨヤマトフミ）

日本紀私記　養老二年撰
弘仁四年多朝臣人長撰
文安磨呂卜云

同私記　弘仁四年多朝臣人長撰

同私記　承和六年菅野高平撰

同私記　元慶二年善淵朝臣愛成撰

同私記　延喜四年八月廿一日藤原朝臣春海

同私記　承平六年十二月八日矢田部公望

追ニ註下　三十

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

同私記　康保二年二月廿五日橘朝臣仲遠
紀　右七部私記ト云
日本紀卜部兼方　二十八
日本紀竟宴集　元慶六年文章生仲遠
續日本紀　四十
同纂　但偽書　二十
日本後紀　七　四十
文徳実錄　十
續日本紀　二十
右六史ト云
三代実錄　五十
續三代実錄　七　大江朝綱　一号　新国史
類聚国史　皆全書ナリ　二百

古事記　大朝臣安万侶　三巻
同新鈔　三品全書ナリ　同續新鈔
日本紀略　大学頭敦光　百練抄　二十
扶桑略記　何閣梨皇円　三十
帝王本紀　本朝帝紀
神別記　本朝世記　藤原通憲　三十五
同鈔　五　日本皇帝記
一代要記　歷代皇紀　二十
皇代畧記　十　日本皇代記　一
皇年代畧記　一　皇年代略記　一
帝王編年記　二十七

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

五代帝王物語　一

公卿補任　九十
新撰姓氏録　萣田親王
政事要略　惟宗允亮　廿五
後宮略傳　一
神皇正統記　北畠親房
本朝月令　二
柱下類林　敦基
日次記　二條家日記
北山抄　大納言公任

六代勝事記　二

辨官補任
新編纂圖　公定十四
女院小傳　一
本朝貴女鈔
續正統記　一
乾鈔　知足院関白
山慈記　三木藤原定長
西宮記　左大臣高明
節會抄　中納言資仲

江家次第　大江匡房
律　四
類聚三代格　五
貞觀式　十
備忘鈔
令　義解　集解　十一
延喜式　五十
内裏式

水鏡　中山忠親　三
大鏡　八
今鏡　一名続世継　十
本朝文粹　明衡
朝野群載　三善為康　三十
椿葉記　道欽　一

世継　藤原為業　二十
増鏡　一条冬基　十
続文粹　薫中抄　四
十五

凡右録

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

江談抄 匡房　六
續古事談　三
大和物語　二
今物語 信実　一
十訓抄　九
小世継　一

古事談　三
新古事談
栄花物語　四十
今昔物語 本名宇治大納言物語　十五
宇治拾遺物語　十五
古今著聞　二十

曽我兄弟戒名
高岳峯嚴良雪大禅定門
建久四癸巳年五月廿八日　祐成

鷲峯院士山良富大居士
建久四癸丑年五月廿九日　時宗

杉田村盤若山安養寺ニ有ル福泉寺ニテ吊久沢村
古原追分ヨリ上道二里富士郡内下方両人ノ
石塔墓印ノ松卒都婆柿ナト老木ニテ今猶
存ス鷲岳山福泉寺開基雲峯智長大和尚
善起三年六月十九日他
高尚云善起ハ偽号也継體天皇十六
年ニ當リ是浮留氏カ安作ナリ
厚原村樋結ニ神ニイハ井両社共今尚在
貝原翁曽我記ニ云建久八年四月将軍家

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

宣ニケル八先年不二野ニ於死セシ曽我ノ者共今
以惟ニ無双ノ勇士孝行ノ者共ナレハ神ニ祝ヒテ
モ益アレヘシ不二野ニ社檀ヲカマヘ神宮ヲスヘテ向
後曽我大明神ト崇ムヘキヨシ仰出サレシカハ駿
河国ノ住人岡部権乃悉緤ヲ奉行トメ両社如
形御造営事終テ祢宜神主ヲ付テ神楽祭
礼ヲ始玉ヒシ同八月ニ神領ヲ寄附セラル其文
書ニ云

寄附曽我宮社領事

駿河国不二郡北山御厨並假宿郷

右件ノ郷園者為頼朝沙汰感祐成時宗勇
敢永令寄附也有其防仍為後日沙汰証文
書以下之嘱如件

建久八年八月廿八日

源朝臣

大磯ノ虎ノ事同記云伏見大納言藤実基
云北武蔵国ヘ流サレシ時ノ狆子ヲ云ヒ建
久四年六月十八日祐成ノ三七日ヨリ祐成ノ母ト
同道シテ箱根山ニ登リ別當行実ノ戒師ニテ
薙髪シ夫ヨリ信州善光寺ニ詣テ又京ノ
黒谷ニ尋上リ源空上人ヲ拝シ後大磯ニ皈
リ高麗寺ノ奥ニ菴室ヲ結ヒ於蓬戸縄
枢内念仏不怠勤行一日モ不欠シテ寛元三
年五月ノ比齢七十一歳ニテ死ト云ニ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

一吉田兼好ハ伊賀国阿拝郡多那尾村国見山麓田井庄ニ引籠観応元年二月十五日六十三ニテ死ス墓松存于今高尚按ニ園太暦巻十八ニ兼好カ事跡アリ

一畿内　帝王ノ居ス国ノホトリヲ都テ畿ト云或説畿ノ字チカシトヨムメクルト訓ス都ヲトリマハシタル心ナリ

一甲斐　山間ノセマキ所ヲ峡ト云ナレハ此国四方皆山ノ中スコシキ国ナレハカク名付シニヤ

一上野下野　上毛野下毛野也両国ノ間ニ二ノ野アリ仏野笠懸野ト云其野中ニ一ノ川アリ渡瀬ト云又佐野中川ト云モアリ渡瀬ヲ以両国ノ堺トシ西ヲ上毛野ト云東ヲ下毛野ト云ナリ凡川流ハ東ヲ下トシ西ヲ上トスルナレ共今ノ例ニ古ヘ古ヘノ字ヲ除ク

彫物司後藤氏道統傳

祐乗　後藤元祖四郎兵衛尉　永正九年十月七日死七十八

宗乗　四郎兵衛尉　七十歳ニテ死

尊乗　子孫絶

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

乗真　四郎兵衛吉久
永福七年二月六日死五十八

光乗　四郎兵衛光家　自是極證文始
元和六年三月四日死九十二
元光乗　子孫ナシ

徳乗　四郎兵衛
天正九年九月十三日秀吉公佛朱印山州ノ
内二百五十石　寛永八年十月十三日死八十四

長乗　七郎兵衛　子孫アリ

栄乗　四郎兵衛光正光
元和三年四月四日死四十三

顕乗　理兵衛正継　則乗早世故継立
寛文三年正月廿二日死七十八

琢乗　理兵衛光昌

悦乗　理兵衛光邦

理兵衛光治　養子

則乗　四郎兵衛光重
寛永八年十月十三日死三十三

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

宗介　出雲　康正正治ノ比始住雲州中京九條後移鎌倉

宗清　刑部　建久元久ノ比住于鎌倉

宗行　兵部　元久寛喜ノ比住一條堀川

宗重　左京　文永ノ比住小申原

宗益　兵部　兼久天福ノ比住紀州

廉乘　四郎兵衛光綱

泰乘　次左衛門光近

乘賢　源四郎　四郎兵衛光喜　元

通乘　四郎兵衛光寿

壽乘　四郎兵衛光理

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

宗忠 新大夫
弘安比
住濃州

宗光 兵ア
元亨建武比
住京九条

宗安 兵庫 嘉慶比
義満公賜摂州川遊郡駿部郷七十貫文並
青銅十万疋

義弘 左京
明徳比
住一条堀川

宗繩 右近
徳治比
住京九条

宗政 左近
建武比
住一条堀川

義紀 左兵庫
同上 応永比
住一条堀川

義則 土郎大夫
正長比
同上

義有 新二郎
文明比
住鎌倉

義保 三郎大夫
延徳比
住常府中又小田原

義長 六郎太夫
同上 宝徳比

信家 左近将監 右政大隅法名覚意
一安家
武田信玄玉衆地及諦字
永正天文比
住甲州居小田原

貞家 又八郎 平六
天文弘治比
白小田原後伊賀

宗家 久大夫
住安土
天正元和比

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

宗信　大隅
元和寛永比
大坂弘戸住

宗利　大和長つ
住江戸改邦道

千家茶道傳来

珠光　東山義政師
南都称名寺僧

紹鷗　信長師　俗名武野因幡仲村

号大黒菴
蚤不相続時代為傳来　一閑居士

利休　秀吉公師　賜三千石
俗名千与四郎　后号宗易
天正十九年二月廿八日死七十一　其先号
田中千阿弥従利休改千為氏

道安　一止斉　早世　号宗寿
少菴　不休斉　号又隠

宗旦　元伯咄々斉
今日菴主

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

宗巴　カイ也

一 宗岫 勘気
三 宗佐 号江吟 二百石
二 宗守 始継他家故江吟為家督 后改家別立家
四 宗室 仙叟始名宗安 宗旦ニ、 隠居所今日菴ヲユツル

宗室 常叟 仕松平隠州

宗菴 巷叟

宗乾 実源叟二子

宗守 一翁 仕松平濳州

宗室 実才

宗守 宗也 久田氏宗全

宗守 文叔

宗守

宗玄

宗貫

宗左 良休

宗全 本名久田宗旦外孫也 実休死而源叟幼 故宗全継千家然不称千氏而襲源叟

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

宗左　漁叟
覚々齋
宗左

利休七哀子

織田有楽
羽柴監物
細川三齋
蒲生氏郷
古田織部
住吉本願

高嶌玄旦
三輪大學
一尾伊織

瀬田掃部
牧田兵部

舟越伊与
松平備州
上柳甫齋
中嶋宗古

山田玄旦
佐久間将監
小堀遠州
永井信州

宗旦弟子
藤村養軒
良休弟子
春木如水
宗全弟子
冨宗有
町田秋波
服部道圓

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

道安

金森雲州
- 多賀左近
- 藤堂監物
- 同 宗和

小川左馬
- 稲葉丹後
- 酒井日向
- 松浦肥前
- 妙法院堯恕

栗山左近
- 保利肥後
- 藤林助之進

庄桐石見

天方備前

五宗匠

珠光 紹鴎

遠州 此三人ハ軍家師範

利休 織部

アメヤ 楽焼陶師傳

高麗ノ陶師太閤時代日本ニ来リ住聚楽ニ以日本人為妻後謂之楽

長二郎 利休時代長ノ字朝鮮人ノ子ト云心也

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

少菴時代
吉右衛門

宗旦時代
吉兵衛イ名ノニカウ

一玄 弥兵衛

一入 吉左衛門

宗入 吉左衛門

左入 吉左衛門

弥兵衛 定才

吉左衛門

連歌花下 此系十六巻ニ註ス
訛 訛不可用
侍ハ宗匠ノ始 宗砌同人カ

心敬僧都

専順

智温 蜷川

宗尹 杉原加賀守

能阿法師

行助法師

心敬門
宗祇法師

薫載

宗積 四
三 宗長

宗牧

肖柏 牡丹花

周桂

紹巴

宗養

慶支 温野ト養
半井ト養父

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

東家秘傳 淮右親房一
古語拾遺 忌部廣成一
清涼記 小一條右府
禁秘御鈔 順徳帝 三
文鳳抄 菅為長 八
法曹至要抄 坂上明三 三
懐風藻 一
木朝麗藻 高積
無題詩集 紀齊名
扶桑集 元三集 日
愚管抄 慈鎮 八
雲圖鈔 七
東宮切韻 菅是善 一
法曹類林 藤通憲
群籍要覧 大江音人
經国集 良峯安世 滋野貞主
凌雲集 小野岑守
文萃秀麗 仲雄王
菅家文集

昌休——紹巴

都氏文集
俊名類聚抄 源順 十
職原鈔 二
卜定記 一条兼良 一
東斎隨筆 兼良 一
桃花藥葉 兼良 一
百寮訓要 二条良基 一
将軍傳 一
保暦間記 三
昆沙門堂所藏記 一
紹運要録

江史部集
改暦雜事
二十一社記 一
名目抄 東山左府 一
兩聖記 右大弁長雜 一
暗筆記 月 廿 二
神明鏡
将門記 一
加茂大神宮記 一
皇胤紹運録
拾芥抄

三 六

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

海人藻苅　三
八幡愚童訓　三
大同類聚方　二
即位職掌録　二
院号定類記　二
新撰年中行事行成
仙洞、、、
南朝年中行事
京都、、、
武蔵七党
侍中群要　十
吉部秘訓　五
江次第抄　十
禅祀部類記　一
禁中年中行事　九條名府
東宮、、、
年中行事秘抄
近例、、、
鎌倉年中行事　三
横山小野氏
村山平氏
丹丹治比氏
丹丹治比氏
宿祢
軍書類
訓閲集　大江匡房作　百二十冊
近世アルモノハ偽物也
寒晷者到来
武備軍要　中興源記
彼書　前集　后集
甲陽軍録　此書　以上小畠景愚作
結要本　十九冊同末上中下
豹虎龍品　以上高坂昌信作
猪俣平氏
西日奉氏
宿祢
野與平氏
兒玉有道氏
首

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

雄鑑抄　雌鑑抄　士鑑要法
微妙至善巻　以上北條氏長作
武教小学一　武経全書七　帥卷問答三
輿儀抄　五　結要品七　足軽左右五
一騎武者受用　武教別集二　兵法或問二
手鑑要録四　聖教要六一　武教総要七
問答三　極要集一
中朝事実二　智鏡要録　武家事記
三當抄　孫子句讀
謫居問巻
右山鹿高祐作

山鹿語類卅三　雄備信要七　神武雄備集卅
士鑑直解十五　士鑑要法二七回大全三十三
雄備詳解三十　武教要略十　軍談粋要十
軍法神鏡五　山井武鑑十二　軍政誓古要略十四
右山鹿門人所集

偽書
武門要鑑抄廿二　雄鑑大全二十　甲陽軍傳記六
兵要鑑十八　武田兵術文稿　香西成資三
軍法極秘傳竹中氏七
但偽書也

廿五享保　後周書曰享茲天命　保有萬国
式部太輔長義考

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

四 元文 周易曰黄裳元吉文在中
三 寛保 国語曰寛所以保衆也註云衆位也寛則得衆ノ
四 延享 藝文類聚曰聖寿延享祚元吉ニ
三 寛延 尚書曰御衆以寛罰不及嗣賞延于世
十三 寶暦 貞観政要巻七曰及下恭而美二寶暦ノ
九 明和 黄奉中帝図ノ上世垂拱ノ無為ニ而天下治
十 安永 尭典曰百姓昭明協和萬邦
八 天明 文選東京賦云寿安永寧
商書大甲曰顧諟天之明命

寛政 左傳昭公仲尼曰善哉政寛則民慢
下文長
台徳公 台ノ字星ノ名ニツカフ時ハイノ音也
晋書天文志 天有三台徳則三公
大猷公 詩經 秩秩大猷聖人莫之
嚴有公 書經 嚴有敬六徳亮永有邦
常憲公 書經 臣人有常憲
文昭公 詩經 允文允武昭假烈祖

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

有章公　詩經　我觀之子維其有章

有德公　詩經　有馮有翼有孝有德以引以翼

惇信公　豈弟君子四方爲則

尚書武成篇惇信明義崇德報功庶
而天下治

諸城御用米　十万石　大坂　五千石　二條
大津　一万石　高槻
永原　千石　熱田
甲府　五千石　一万石　駿府

千石　蒲原　三千石　三嶋
二千石　藤沢　千石　金川

元和四年伏見城廃仍水野分長牧野信成督
其源守大坂城是大坂在番始也
同五年己未松平康安松平勝政代水野牧野
而守之自是歳々交替至于今　二條城三千
人番ノ始ハ
寛永二年乙丑渡邊山城守茂奉之酉年組頭
二人被仰付高木忠右衛門市岡左太夫戌年
又兩人服部八郎右衛門竹嶋七郎右衛門同
十二亥年ヨリ百人番也
同十二年三月廿一日命大番士駿府二條大坂三城

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

令交替守之江城勤番矣之
同十六年正月廿日ヨリ駿府在番矣許
同五年七月十三日證人矣之
同六年正月所々辻番ヲ置
同九年六月廿日諸士毋衣指物ノ品ヲ定ム
同十年八月廿二日大番乃衆與矣許
同十六年十月七日江府中昼夜廻リヲ定ム大番
十五人御小姓組七人御書院番七人
同十八年二月依命諸家系圖撰之凡三百
七十余巻太田資宗奉行之
同十九年五月十四日御譜代大名始令交替
同二十年八月七日始新番四組ヲ定
慶安元年六月十三日二組ヲ増ス

明暦三年正月十八九両日江戸大火事
万石以上百六十軒大御番百四十、
御書院百九十 御小性組二百、新番二十三、
小十人六十、凡七百十三、町屋四百町斤町
八百丁無主屋敷八百五十六
万治元九月八日始定火消四入ヲ定
元和二七月十七日諸職人天下一ノ号停止之
貞享元十二月廿七日諸番皆勤輩黄金賜
之
享保七年四月十二日武田信玄百五十年忌
甲州恵林寺法會大小名甲斐源氏ノ輩各香奠
出之大目付横田備中守司之

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

朝鮮国王李昭　奉書
日本国王殿下
交隣府道自古而然二百年来海波不揚何莫
非
天朝之賜而敝邦又何負於
之変無敢動矣構禍極悛而反
君臣痛心切骨義不与
貴国共戴
天六七年来馬島或以和事為情者実敝邦
兼聞今者
貴国改前代之非行旧交之道誠
亦非而国生霊之福也故馳使介以為和交之
験不腆之土宜具載別幅統希
盛亮不宣

萬暦三十五年正月日
朝鮮国王李　昭

別幅

蒼鷹　五十連
帽段　二百疋
白苧布　三十疋
花文席　二十張
青皮　一十張
豹皮　二十張

人參　二百斤
白綿布　五十疋
黒麻布　三十疋
白紙　五十巻
虎皮　三十張

日本國
朝鮮国王殿下

整
憲源秀忠

奉使僧

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

玉章落手拜披薫讀巻舒勿措不勝歓
惊郊又呂祐吉席暖還下好寛之三使不遠
千里海陸二到敝邦而傳 霊區之異産
如別幅所載件々納受懇情益切感愧交
加夫吾邦於 貴国結隣盟者所従来二太久矣今也要修旧
交敝邦又何存疎志予勢利之交古人所羞
只旦以信義為心也
維時緑竹風静黄梅雨晴伏冀順序保
嗇不宣
龍集丁未夏五月日
日本國源 秀忠

長刀 十五振

貞徳 母松永久通女 元亀二生小名勝熊
松永逍遥軒長頭丸吟花即 花咲翁 号応
二年死八十三松永明心居士
一云父永種女妙寿院女
昌三 小名昌三郎 号既六年
幄窩門人 十八歳謁秀頼講大学 明暦
元未死六十六
永三 二男也 号懐徳堂春秋館

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

正徳年間朝鮮国ヘ遣ハサレシ御屍凡ニ
為朝ヲ画レタル讃ノ末ニ
永萬元年三月嶋中適有鴛南飛仰瞻
曰彼必有所止急ニ挟弓走ル舸逐之抵鬼
國々人驚其勇悍ニ来服或云鬼国ハ
即琉球國居頃之娶大里按司妹生舜天
王乃中山王祖也
右白石君義所撰也

保元平治物語　六冊
同岡崎本　同半井本　同杉原本

同鎌倉本　同京師本
平家物語　十二冊
同長門本　同八坂本
同鎌倉本　同北国本
源平盛衰記　四十八　同阿弥陀寺本
同異本　義経記　八
同異本　東鏡　五十三
兼久軍記　三
同異本　嶋津家本　同脱漏　一
大平記　四十
同京本　同天正本
同今出川本　同北條家本
同西源院本　同金勝院本
同南都本
同毛利家本
同今川家本

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

明徳軍記 三
續明徳記
文正記 一
応仁記 三
長禄記 一
永享記 一
舩上記 一
高月記 一
梅松論 二
難太平記 一
並合記 一
嘉吉記 一
櫻雲記 三
南朝記傳 三
鎌倉大草子 一
新田老談記 四
足利治乱記 四
今川記 二
細川記 二
山形軍記 三
畠山記 二
結城戰場 二
二川物語 一
北畠物語 三
吉野拾遺 三
毛利記 七
芦名軍記 二
大友興廢記 廿二
豫章記 三
室町日記 廿一
龍造寺記 五

戸次軍記 十三
江北記 一
里見記 一
大和記 一
九州記 三
房総乱記 一
伊勢兵乱記 一
安土日記 十五
會津四家合考 十二
信長記 八
長元実録 三
豆相記 一
中國記 一
兼山記 一
賀越物語 一
賀越開諍記 五
舩岡記 一
公武相交記
河越軍記 二
武教徒然艸 五
豊越乱記越誤當作筑五
甲陽軍鑑 十九
同末書 五品
申乱記 二
本朝三國志 三十五
藤巢栄衰記 二
峯相記 穴太記 三
宗像記 三
嶋津家記 七
旅宿問答 一
秀元軍記 三

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

清正記 七
沼田記 一
斯波家譜 一

伊達成実記 三　芦田記 一
仏道記 一　斉藤道三記 一
野田福島記 一

楠氏一説

敏達 ― 難波親王 ― 大俣
　　 ― 美奴王 ― 諸兄 ― 奈良麻呂 三木正三
　　 ― 嶋田麻呂 从四下兵ア大 ― 真材 从五上伯耆守

峯範 从五上図書ア
　公村 从四上 右京太 ― 如古 从二 大納 ― 行資 伊与守 ― 兼遠 从五下 ― 正遠 从五上
　　 ― 廣相 正四上 三木
　為政 从四 大和守
　成経 皇后ア
　盛仲 掃ア介
正成

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

高階氏

天武 ― 高市王 大政大卜 持統十年 正二无大弐ア〻
七月十三日薨四十二 長屋王
┌ 桑田王 公五上 王 ― 磯部王 大監三川 公五上 ― 石見王 公五上
└ 峯雄 公四上 丹波 山城
　 ├ 師尚 從四上 備前 但馬 実業平子
　 ├ 敏忠 公五上 左金吾
　 ├ 成佐 筑前守
　 ├ 惟章 河内守
　 ├ 業遠 正四下 丹波 美濃
　 ├ 良臣 正四下 宮内〻 天元三七五死
　 └ 成範 公五上

惟賴 大高大夫 実源義家子
惟範 滝口 ― 惟長 刑ア巫 ― 惟賢 高新五郎
重氏 左馬 ― 師氏 右馬 ― 師重 右馬 ― 師恭 越後守
　 ├ 師直 成蔵守 近常
　 ├ 師重 駿河守
　 ├ 師久 豊前守
　 └ 師行 左馬
惟重 刑ア ― 師支 豊前守
師誰 ハリマ守
師冬

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

- 佾春 右馬ノ
  - 師信 八郎
    - 定義 左一
      - 惟氏 右馬四郎
- 佾潮
  - 師潔 越後守
    - 師為 ヌリ守
      - 佾繁 刑ア越後
        - 師宣 越後和泉 刑ア弥二郎
  - 師奥
    - 師厚
- 久直 七郎
  - 師夏 五郎
    - 佾世 左近ヲ監
    - 師秀 尾張守
- 師俊 二郎
  - 佾長 亮二郎

杉原氏

- 平負衡 安乃津三郎
  - 負清 中宮長
    - 清經 ワシノ尾二郎
- 維經 来名三郎
  - 良平 九郎
    - 恒平 摂津守
- 宗平 大和守
- 光平 伯耆守

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

柴田氏

小笠原貞朝二子左衛門尉定政末

康之 始政之 重政 柴田七九郎

初号小笠原江左衛門 改之後ニ召出政柴

田七九郎 天正十八玉武州羽室領内菖蒲

五千石 天禄二五月廿六日死五十六東白

一云左衛門改忠子七九郎康忠

康永 七九郎 法後

寛永四八御小性組ニ仗 同十七廿六

番 仗同十二廿七御書院仗同十三六十

三死

康久 七九郎 法後宗守

寛永十三家督三千五百石同十五四廿五御小

姓組ニ仗正保二六廿六番 仗慶安三十月死

康明 彩兵衛 領千石

寛永十八七五御小性組ニ仗慶安三九三

西丸御書院子ニ

女弓削由忠右衛門昌勝室

康能 七左衛門 日向守

天和二三廿九御使番 四廿一加五百石元禄

元八廿三御目付同十六三月十一 三廿八加五百石仙洞

付同十六三月免役

女戸川主水妻

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

康時 七左衛門
宝永五七廿五御使番 享保四二廿八矣

康利 七九郎 和泉守
寛文元閏八十二御小姓組 二月九十一
月番沢延宝四五廿五御重院 二月七十二死
四千石天和元正十一大番 二月四月加二千
石月四二廿六御留守居 月十二十七戌召上月
五十二九致仕

女 松平外記忠冝室

康 半之允 七九郎

女 川勝十郎右衛門 永井外記尚行妻ホ
平四郎室

康 酒之允 但馬守
実松平忠明子

元文二年巳九月七日
竹千代君御誕生為掃祝儀禁裏ヨリ被進
物如左

一御細長 亀甲 一領
一御襠袴 亀甲 一帖
一御帷子 小菱 一領
一御平絹 小菱 一領
同

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

右一箱華足裏木在之

一御細長亀甲　一領　一御単小菱　一領
一御襠袴亀甲　一帖　一御帷小菱　一帖
右一箱花足裏木在之

一案　以上唐櫃一合ニ入
一帯　二筋
一冠　一脚
一覆穀織
一帖
敕使　菜室前大納言

江戸町数千六百七十二町家数十二万八千五百
七十五軒　人数五十二萬六千二百十人

内男廿二万五千七百人
女　三十万四百十人
外安家二万六千九十五人
山伏三千七十五人
盲人　千七人　神女
都合廿六万五千四百七十六人
右一月ノ飯米十六万二千四百俵
享保八年六月　改
當時長寿ノ人
百七十七歳
百二十三才

志賀隆応
小森勘左衛

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

百八才
百三才
百一才
九十三才
四才
九十二才

伊丹平左衛
石井勘右衛門
飯田伴蔵
沢庄蔵
水野伝中
柴田七左衛
下條長兵衛

享保六年丑八月朔日御儀辻番上ル八十三ヶ所
江戸総辻番数八百九十三ヶ所
内一人勤二百十八ヶ所
組合六百六十五ヶ所

外拝借地辻番十ヶ所
内小石川御薬園廻八ヶ所内薬園預り支配
聖堂前一ヶ所牛込山伏町一ヶ所目付支配
拝借地辻番三ヶ所上野目代支配内車坂下
一屋凡坂下谷中通一
寛仁脱土手通り給金辻番二ヶ所町奉行支配
床商賈髪結床小助成ゟ請負両國橋新大
橋永代橋際辻番六ヶ所町々名主支配外三ヶ所
是ハ夜斗両人宛之

百人組ゟ力八十五ヶ同心四百人
御持弓筒ゟ力七十ヶ同心三百八十五人

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

御先手弓鉄炮同心与力二百五十六キ
御留守居与力五十人同心二百八十二人
大御番与力百二十キ同心二百五十人
御書院与力百キ同心二百四十人
町奉行与力五十キ同心二百五十人
火消　与力六十キ同心三百人
御旗与力一キ同心三百人
御鎗　同心十人
御本丸
御留守居与力六キ同心二十五人

元
御留守居同心廿四人ツヽ　御舟手同三十人
御納戸拂方共同三十人ツヽ　御腰物方同十人
所司代与力五十キ同百人
御城代
御定番与三十キ同百人
伏見奉行与十キ同五十人
駿河与十キ同五十人　禁裏付与十キ同四十人
京町与二十キ同五十人大坂町与三十キ同五十人
堺町与十キ同五十人

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

於京三十三間堂通矢順

慶長十一年正月十九日

通矢五十一本　浅岡平兵衛

同十二　上田角右衛門

同百廿本　筒井傳兵衛

同十三　塩屋角左衛門

同百五十九本　梛田治左衛門

同十四　吉田五左衛門

同百六十本

同十五

同百七十三本

同十六

同百八十八本

同十八

同二百五本

日玄清順

同年　伴半右衛門

同二百十一本　堀江助右衛門

元和四　吉田大内蔵

同二百廿一本　同人

同年　糟屋左近

同二百三十四本　吉田大内蔵

同五年

同三百八十四本

同六年三月廿一日

同五百三十四本

同年四月十七日

同五百八十四本

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

月七年四月廿四日
同七百五十六本
月八年五月廿一日
同九百本
月九年五月二日惣矢数二
同千三百三十三本
寛永四四月廿七日
同千四百四十四本
月五年三月廿三日
同千五百八十三本
同三月廿四日
同千七百三十本
同四月廿一日
同千七百四十二本

月人

矢嶋平右衛門
同千八十七本
吉田大内蔵
秋葉勘兵衛
糟屋左近
落合源九郎
吉田大内蔵

月六四月七日惣矢三千百十二本
同千七百四十六本
同四月十日
同千八百五十二本
同四月廿七日惣矢数四千
同千九百廿本
同七四月六日
同二千五十四本
同八三月廿八日
同二千二百七十一本
同三月廿九日
同二千七百八十四本
同四月十九日
同二千八百三十五本

下村忠右衛門
落合源九郎
山田半内
糟屋左近
吉田小左近
杉山三右衛門
大橋長蔵

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

日十二四月 廿四日 五千三百廿本 高山八右衛門
同 三千百五十一本
日十二四月 朔日 趣数六千八十二本
同 三千四百七十五本 杉山三右衛門
日十四三月 十三日
同 三千八百八十三本 吉井助之丞
同三月 十五日 七千百八十本 長屋六左衛門
同四千三百十三本
日三月 十八日
同 五千四十四本 杉山三右衛門
日三月 廿八日
同 五千百九十七本 高山八右衛門
日十六四月 十八日 九千八百本 長屋六左衛門
日五千九百四十四本

日四月 十九日
同 六千百五十四本
日十七四月 十六日
日六千三百廿三本
明丁二閏四月 廿一日
日六千三百四十三本
寛文二四月 廿八日 一万廿五本
日六千六百六十六本
日八五月 三日 九千四十二本
日七千七十七本
日九五月 二日 一万五百四十二本
日八千本
貞享四四月 十六日 一万三千五十三本
日八千百百三十三

高山八右衛門
長屋六左衛門
吉見基右衛門
星野勘左衛門
葛西園蔦
星野勘左衛門
和佐大八郎

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

近世先数帳一冊ヲ剣ス始終ニ大小ニ夫数
姓名年月尚是ヨリ委シ是ヨリ

御當家記録
家忠日記 附 菊家忠日記録ノ始二十五
松平記 松平家忠手記
御年譜 七 照代実録
徳川記 五 同附尾 二
参河記 八 参河物語 廿五 三
岡崎物語 三 同大全 十五 四
参陽実録 三川国史
十五 参河日記 二十

東宮記 五
徳川傳記 十
三方原御合戦記 一
小牧御陣記 一
関原記 十
同軍記 三
同始末記 二
同大全 三十
石田軍記 十三
関難間記 三
駿府記

徳川正統記 廿五
姉川御陣日記 二
長篠御陣記 一
長久手物語 二
同日記 十五
同誌記 十
同大條志 十三
上田御陣日記
東西合戦記
駿府政事録 八
大坂物語 二

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

難波戦記　十
慶元日録　二
秀頼事記　一
松平信重記　二
夜話　二
小島景憲聞書　二
北川覚書　二
村越翁記　二
三川関原難波記異本
除限ナシ故畧ス
慶長元和日記
同大全　廿八
冬夏実録　十
三川八代記　八
創業記　二
伊東道斉物語　五
石谷貞清手記　一
片桐傳記　三
寛明日記

東武実録　五十
落穂集　十
兵家茶話　十二
武野燭談　三十
玉滴隠見　四十二
参松傳　十五
創業記考異　十
岩淵夜話　三
同異本　三十
諸家傳記　十五
玉露叢　六十二
武徳大成　三十
嶋原記　五

日本書紀天武天皇三年三月丙辰對馬國司忍海造大国言録始テ當國ニ出ト則貢ル銀日本ニアル此時ニ始ル故ニ諸神祇ニ奉リ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

玉ノ続日本紀聖武天皇天平廿一年二月
丁巳陸奥国始テ黄金ヲ奉ル　元明天皇
和銅元年正月十一日武蔵国秩父郡始テ
銅ヲ貢ル仍元ヲ改テ和銅ト云　銭ヲ鋳サシム
又和同開珍ト云天平宝字四年新銭ヲ鋳ル
又萬年通宝ト云一ソヲ以旧銭十ニ當銀銭
ノ文ニ太平元宝一ツヲ以新銭十ニ當金銭ノ
文ニ元基勝宝ト一ツヲ以銀銭十ニアツ
有徳院様御座ノ間御掛物ノ由
夫地獄をそよあらせ。眼前ノ神　成嶋道筑詰
極楽。ハけてやらへ。倹約をへまれ家業大切ノ

獄ヲ壊シ嶋迫放ハ慈悲ノ説法也　一休判

養花天（ヤシナモリ）　稲生若水説
月令廣義ノ文ヲ楊升庵文集ニ出
自今以後　孔子家語ニ出
東國廿八ヶ國　五畿内　東海道　東山道
西國三十八ヶ国　出東鑑十七

御金藏分銅ニ銘ハ林春秋作ト
行軍守城用　勿作尋常費
萬治二年己亥正月吉日

佐竹社　鎌倉大町内ニ佐竹天王ノ神社アリ
印地神主小坂氏　脱錬倉志

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用

赤人塚　上総國山邊郡東金ノ邊田中村ニアリ田ノ中ニ小キ塚ニ
宝珠山法光寺ト云フ寺ニ赤人ノ像ヲ安置ス
世ニ傳ヘテ赤人ノ墓ト云フ
松平新右衛門

木曽義仲碑　上総國佐ヘ郡細戸ニ西光院ニ位牌石塔アリ
真言宗
内裏雛　金立卅山城ノ名所ヲ記スル菩薩
他山其六弓射ル人肩様トテ寸他ノ上ヲ射
通ス弓勢ヲ見ル後ニ三十三ノ堂ニ移ル
朝鮮國征秀吉公人數分目録

慶長二年二月廿一日　秀吉朱印

一万人　加藤主計頭清正
七千人　小西摂津守行長
此両人先手二百騎ヲ替但閾取非番ハ二番目可
備也

千人　羽柴對馬守津從三千人
二千人　有馬修理大夫　千人　松浦刑部法印
七百人　立嶋大和守　大村彩八郎
合二万四千七百人
五千人　黒田甲斐守　二千人　毛利壹岐守
八百人　嶋津又七郎　二百人　羽豊前守
三百人　秋月三郎　五百人　高橋九郎
伊東民ア太輔

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

八百人　相良宮内大輔
三備合九千六百人
四番四俊　鍋嶋加賀守　二万二千人　月信濃守
五番三備　一万人　羽柴薩摩侍従
六番四俊
三千人　羽柴土佐侍従　二千数百人　藤堂佐渡守
二千四百人　加藤江馬助　六百人　来嶋出雲守
千五百人　中川修理大夫　二百人　菅平右馬尉
合一万三千人
七番三備
七千二百人　蜂須賀阿波守
千二百人　服部中務少輔　二千七百人　生駒讃岐守

五備　三万人　安藝宰相秀元
三備　一万人　備前中納言秀家

此両人先陣替ル
釜山海城　一万人　内三ヶ所ハ城ニ見斗ニ加勢也
九日付　三百九十人　太田孫弾正
安骨浦城　五千人　羽柴柳川侍従

加徳城　高橋主膳正　五百人
筏柴上野介　五百人
竹嶋城　千人　羽柴久留目侍従

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

栗生城　三千人
城ニ在番衆合二万三百九十人
都合十四万千五百人
一釜山浦　一年依　一舟弓
一名古屋
右四ケ所ニ次舟ヲ毎日先ヲ仕進ス弓
引テ中上ル也
寛文十二年七月二十八日琉球人来朝ノ月
十日御暇
信使　副使　通事
金武按司　越来親方
宇良親雲上　金城

浅野左京大夫

川上
垣本（カキモト）
津波（ツハエ）
平安山
保栄茂里子（ホエモサトノ）
思次郎（アラヘイジル）
太郎（タル）兵衛

伊計（イケイ）
稲福（イナフク）
前田
新川
大城里子（カキクスク）
松兼
真三郎（マサンフル）

中山王献上
官香　十包
青貝皐子
綾芭蕉　十端

香餅香　五箱
堆朱皐子
練芭蕉　弓

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

泡盛酒　十壺

中山王ニ被下

白銀　五百枚

信使ニ

時服　十

錦　六葉

綿　三葉

謹令呈上二翰候抑去歳吾薩州之太守
光久奉鈞命ヲ弔嗣琉球国之爵位因
茲為奉述賀詞使小臣金武王子附光久
献上不腆之土宜ヲ伏冀以諸大老之指南
可達　台聴俄所仰ノ誠惶不宣

中山王尚貞

寛文十二年戌五月廿九日　一枚五

枚倉内膳正殿

土屋但馬守殿

久世大和守殿

稲葉美濃守殿

使价金武王子来貢旁簡被関面話惟同
抑去ル年自薩州太守光久就中達琉
球國傳封ノ儀為安堵ノ賀浅ノ献進上
件之使者捧ノ登営如目録被露ノ奉
台覧ノ処使者ハ召出拝伏前仰
気ノ多殊宜幸甚ニ存候遠懐猶尓

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

示諭使者畢不宣

従四位侍従兼内膳正源朝臣　重矩

従四品侍従兼但馬守源朝臣　數直

従四品侍従兼大和守藤原朝臣　廣之

従四品侍従兼美濃守越智朝臣　正則

田谷中山王館前

天和二年壬戌四月十一日琉球人御代替

御礼

進上

御太刀　一腰

御馬　一疋　琉球馬庶毛

中山王尚貞

進上

青貝大中央卓　二却

青貝大硯屏　一対

朱塗沈金大飯籠　一対

寿帯香　三十連

香餅　二連

竹心香　百袋

羅紗　二十間

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

綱紗　五十端
嶋芭蕉布　百疋
畦芭蕉布　百把
薄芭蕉布　十壷
太平布
久米綿
泡盛酒　二ツ上
進上

官香　十把
壽帶香　十箱
嶋芭蕉布　廿端

中山王尚貞

太平布
泡盛酒　二ツ上

中山王使者
名護王子朝元
家来

二十疋
二壷

恩納親方
知念親雲上
平識
濱比賀
糸數
屋冨祖
尚貞
上江洲

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

楽人六人雑人九十三人

同四月十四日於御前書院庭上楽上覧

太平楽　一万歳楽　雑楽

同楽　一万歳楽　雑楽

三線ヲ　唐哥

楽器

鼓　小鉦　笛

鉦鼓ヲ　手拍子

三金　三枚

貝志、、、

官平、、、

稲峯、、、

小橋川、、

同十六日御暇

白銀　五百枚　綿　五百把

白銀　中山王ニ　二百枚

名護王子ニ　三百枚

銀　従者中ニ　小袖　十

小袖三十

肝煎　一人

楽人七人

外役二人

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

若君様掾ヨリ
白銀　三百枚
綿　中山王ヒ　小袖　二十
　王子ヒ　百把

枇杷葉湯　関元伯典家法
木香一戔　藿香　同
呉茱萸同　枇杷葉一戔半　ニルモ半銭
右刻一服ヲ一夕ニ合用

マメノ妙薬
幕毛馬ノ糞黒焼ニメタル

疱瘡妙薬
黄ヘキ二蜜三十五ヘン引粉ニメ付ル

湯焼ノ妙薬
南天ノ葉モミテ付ル
小児乳少ニ用

蓮肉八夕　白茯苓六夕　黄実六夕　山薬七夕
薏苡四夕　麦牙四夕　葛粉二夕　白扁豆二夕
砂糖十六夕寒晒粉少
右十味細末土鍋ニテ練

武州八王子平山邑徳善院ニ武者所来重ヵ
墓ヲリ
同所ニ日奉大明神鎮守トス八即家重ヲ祀レリ

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

公帖

公帖を以て五山等大寺社住持職を補任の時、将軍より下書物之料帋を以て牧志して書たるべし

五山第一天龍寺住持職
事任先例
陽之状如件
年号月日　左大臣

服忌令追加

一妾服之子其父嫡母継母を以養母と定る時ハ忌五十日服十三月て済し母方親類し服忌養実し差別家督相続し養子のごとくなるべし

一継母の子継母し服忌ニ而ても父し格次第土ニ而し但継母方し親類ニハ服忌なし

一家督を以養子ニ遣し実方し養母嫡母継母服忌ニ而も父し格次第ニ而し外地配当せざる養子ハ右し服忌ニ而も兄弟姉妹人ニ養を以養方し伯叔父ニ而も実方し伯叔父

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

兄弟姉妹他家ノ養子ニ者モ服忌ヲ
差憚
一其身養子ニ来リ実方ノ伯叔父兄弟姉
妹ヲ内人ニ養ヲ受ケ又ハ養ヲ受ケサルトモ子供ヲ減
シ服忌ヲ令スヘシ
一父養子ヲ定メ置ノ時ハ父
ヲ父母兄弟姉妹養実共半減シ服
忌ノ更ニ本父ヲ養子ノ身モ養
子ノ時ハ養父ヲ実方ニ付テ半減シ実ノ服忌ヲ令ス
者服忌ノ更ニ
一半減シ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟
姉妹ヲ同前
一嫡子ヲ人ノ養子ニスル時ハ服忌未ノ
子ノ ニ依ヘシ右七ヶ条ノ文ヲ補ヒ
元文元年九月十五日

日本往生傳一慶保胤
拾遺往生傳一善為康
新修往生傳漁宗友一
禅祚部類記一
公事根原無良三
誉田八幡縁起源義教二
革暦改元記

続往生傳一江匡房
後拾遺一
即位職堂録二
院号定部類記二
多武峯縁起一
二

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

長寛勘文　二
宝物集　平康頼　八
柿抄　通方　三
長明四季物語　一
同発心集　十
同注　三
雑々拾遺　六
小嶌口荒良基　一
布衣記　一
野守鏡　四
三事和字抄　兼良　一
閑居友　慈鎮　四
義満元服記　一
撰集抄　九
長明方丈記　一
和漢朗詠公任　二
新撰朗詠基俊　三
嵯峨野物語　一
美濃路紀行　兼良　一
宗長日記　一
詞林采要抄　由阿　十
世間咄咎　三

近代雑著
異称日本傳　松下見林　十五
国朝佳節六　一
参考職員抄　五
本朝編年録　四
和漢軍談　八
武仙儒仙　二
七書抄　四十五　此外多シ
王代一覧　林春斎　七
歴代笙宰録　十
本朝通鑑　四十五
国史実録　七十八
本朝人一首　五
職原聞書　八
前王廟陵記　一
公事根源集釈　一
将軍家譜　林道春　七
神社考　六
多識篇　五
徒然艸野槌　十三

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

犬追物詰 二
大和本草貝原篤信 十
日本紀名目 三
樂訓 此外多
兵家茶話 十三
武藝小傳 五
八幡本紀貝原好古 八
日本歲時記 七
和爾雅 九
日本水土考 一
華異通商考 五
東雅 荒井君義 五

本朝瞥古篇 此外多
和漢名數 五
和字解 一
參松傳 夏繁高 十五
三愛抄 二
武林原始 八
天滿宮記 二
和漢事始 十三
諺中 九
本朝怪異弁 八
本朝軍器考 荒井白石 十四
五事畧

同文通考 二
南海治乱記 十七
菊池佐ゝ記 井沢長秀 十
本朝俚諺 八
武士和訓 戸嶋良矩 五
名君文武跡 六
勇士一言集
非東要令抄 五
同図式 三
單騎要畧 一
町間弁疑 西川忠二郎 五
同気吹抄 一

甲越戦争記 香西成資 七
武田兵術文稿 三
俗説辨 五十
武士訓 十三
武藝訓 五
武家図象傳 六
職原辨疑 壷井義知 三
裝束抬要 二
武用弁畧 八
量地指南 一
中臣祓古義 多田義俊 二
神明憑談 二

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3
ガラス使用

南嶺子日　四
秋齋閒話日　四
萬葉集代匠記釈契仲二十
漁中拾遺日　四
黒白最要抄日　二
勝地吐懐篇日　二
雑記　雑ニ記日
五畿内志　亜河五一
蘆州府志　十
大和幽考　十五
類聚雑要　四
花押叢　続　十
同遺稿日　四
恐惶抄日　一
古今余財抄日　二十
勢語臆説日　四
百人一首改観抄日　五
川社日　二
山城名勝志大嶋武好　三十
泉州志　六
鑓倉志　十三
摂陽群談　二十
海東諸國記　一
古押譜　五

會津風土記　一
皇和通歴　二
藤原系図　三
禮口訣　二
作者部類　続　二三
日本書紀曰清寧五年甲子正月飯豊書野皇女於忍海角刺宮臨朝秉政同年十一月崩葬四十八墓於葛城垣日陵　三五
高尚按飯豊天皇ト称セス禅祢ト云ス唯乗改ト書ス故歴代ニ列ス其書法旦吾ス又崩ト云山陵ト云時ハ　四
常陸国志　三
善隣国宝記　四
知譜拙記　十二
三浅一統大諸礼　廿二
山州名跡志

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3
ガラス使用

大友　天子受也甚可疑

水鏡曰天智十年正月五日任太政大臣十二月三日帝崩同五日大友即位

高尚按二日本書紀即位ヲイハス帝号ナシ尤歴代ニ列セス然レ𪜈天智崩ヨリ翌年七月ニ至テ天下ノ令大友ニ出スシテ維ナラムヤ旦日本紀近江ノ朝廷ト云者大友ノ事也水鏡即位ト称スル一理ニ於テ通セス禅称カ尚可疑

九條　帝王編年曰美久二年四月二十一日受禅七月八日遜位治七十七日

高尚按二編年記九條ヲ歴代ニ列スル治僅ニ七十余日尤即位ノ礼ナシ如何

朝鮮人来聘年記

慶長十二年丁未四月二十四日
元和二年十巳八月二十一日
寛永元年甲子八月十二日
同十三年丙子十二月十二日
同廿年癸未七月十八日

明暦元年　十月八日
天和二年壬戌八月廿七日
正徳元年甲申十月十八日
享保四年己亥九月廿七日

国立国会図書館　三才雑録　特1000-3

ガラス使用

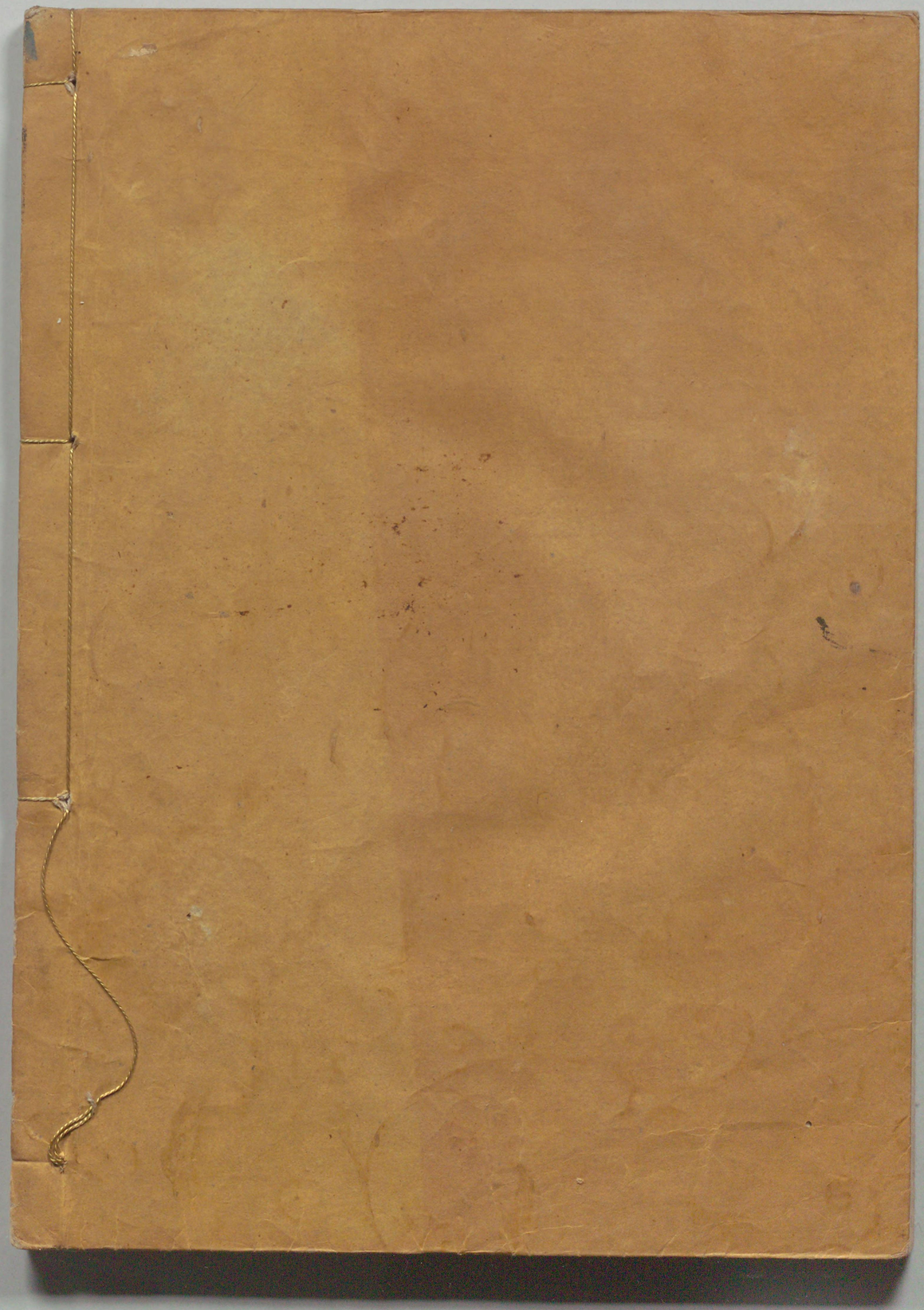
1000
3

琉球人来聘年記

慶長十四年辛酉八月八日
寛永十一年甲戌閏七月九日
正保元年甲申六月廿五日
慶安二年己丑九月朔日
巽応二年癸巳九月廿八日
寛文十一年辛亥七月廿八日
天和二年壬戌四月十二日
宝永七年庚寅十一月十一日
享保三年戊戌十一月十三日

国立国会図書館　三才雑録 特1000-3

ガラス使用



国立国会図書館　　三才雑録　特1000-3

ガラス使用